



J R 連 合 NEWS

J R に 集 う
すべての仲間の
J R 連 合 へ の
総 結 集 を !!

2020 年度

N o . 9 6

2021 年 5 月 11 日

日本鉄道労働組合連合会

～連合と「総対話活動」を展開～

人流の回復に向けた相互連携を確認！



J R 連合は 5 月 10 日、連合と「総対話活動」を実施し、神津里季生会長をはじめとする連合役員と、コロナ禍における J R 産業の現状や、J R 連合が取り組む産業政策及び労働政策などについて意見交換を行った。

今回の総対話活動は、連合本部と構成組織との情報の共有化と意思疎通を図る目的で連合主催のもと開催された。会の冒頭、神津会長は挨拶で「コロナ禍は業種によって影響に偏りがある。リスクと闘いながら職場を守り、“移動”を支えている J R 連合の声をしっかりと聴き、今後の展望につなげたい」と語った。J R 連合荻山市朗会長からは「J R 7 社は 2020 年度期末決算で収入が 3 兆円減り、1 兆円の赤字となった。一時帰休や在籍出向など自助努力を行っているが、経営体力は大きく棄損しており、自助努力では限界にきている。こうした状況を踏まえ、J R 連合は J R 産業の持続的成長と安心して働き続けることのできる環境を創り出すべく中長期的な視点で政策提言を発することとした。かかる政策実現のためにも連合と連携を深めて参りたい。一方、職場に不安が広がる中、J R 産業には集团的労使関係に守られていない仲間がまだ大勢いる。J R 連合への総結集に向け輪を広げていく所存なので、連合挙げての後押しを是非お願いしたい」との課題認識を訴えた。

その後連合及び J R 連合双方からコロナ禍への対応について説明を行った後に意見交換が行われた。その中で政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会メンバーである連合の石田昭浩副事務局長より、「感染症の専門家が多い中、この間連合を代表し、J R 連合からも頻繁に産業の状況を伺いながら雇用と経済を中心に分科会で発言を続けている。今後も本日 J R 連合より頂戴する要望事項等を踏まえて分科会に参画する」との提起があり、J R 連合からは雇用調整助成金に関する特例措置延長要望やグループ会社間における出向への産業雇用安定助成金の適用、さらにはワクチン接種体制の強化、検査体制の拡充、国民が抱えている公共交通利用や移動に対する不安払しょくに向けた取り組み強化など、広範囲にわたる主張を行った。

終会に際して神津会長は「本日の対話を通じて J R 連合には課題の本質がしかと見えていることがよく分かった。引き続き『J R 連合ビジョン』を掲げ、その理解を広めるべくご尽力願いたい。連合も引き続き J R 連合の取り組みを支えていく」と締めくくった。